

道徳性が社会科公民的分野への興味・関心を与える影響について

1170467 平松 久典

高知工科大学マネジメント学部

1. 概要

現在日本の中学校において、2019（平成 31）年度からの道徳の教科化により、今まで以上に各教科との連携が求められている。そしてそのことは社会科においても例外ではなく、むしろ社会科公民的分野においては道徳教育との内容の重複も相まって他の教科に比べて道徳教育との繋がりが深いと判断できる。そこで道徳性が社会科公民的分野への興味・関心を与える影響を調査することで、道徳教育と社会科公民的分野の教科間における連携において、より一層相互の理解に大きく貢献できると考えたため本研究を行った。調査方法としてアンケート調査を採用し、社会科公民的分野の学習を終了している 144 人の中学 3 年生を対象とした。また今回は社会科公民的分野と内容の重複がみられる道徳教育における視点 3 の「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」と、視点 4 の「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の道徳性を診断した。結果として、道徳性が高いほど社会科公民的分野への興味・関心が高いということが判明した。また道徳性においては、社会に対する道徳的実践力が高い人は社会科公民的分野への興味・関心がより高く、社会科公民的分野の各範囲については「現代社会」と「国際社会の諸問題」への興味・関心がより高いということが本研究で明らかとなった。

2. 背景

2.1. 今日の中学校における道徳教育の在り方について

中学校学習指導要領における道徳教育の在り方として、「学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。」（文献 1）とされている。また、文部科学省は道徳教育の現状に対する課題として「子どもの心の成長にかかわる現状を見ると、子どもを取り巻く環境の変化、家

庭や地域社会の教育力の低下、体験の減少等の中、生命尊重の心の不十分さ、自尊感情の乏しさ、基本的な生活習慣の未確立、規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下など、子どもの心の活力が弱っている傾向が指摘されている。また、社会参画への意欲や態度の形成が求められている。」（文献 2）などの点を指摘しており、その課題に対する改善策として「特に小学校高学年や中学校の段階で、法やきまり、人間関係、生き方など社会的自立に関する学習において、より効果的な指導を行うため、道徳の時間及び各教科等それぞれで担うものや相互の関連を踏まえ、指導方法や教材などについて工夫することが必要である。」（文献 2）などの点を挙げている。

2.2. 道徳教育と社会科公民的分野の関係性について

中学校学習指導要領における道徳教育の方針として、「道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。」（文献 1）と記されている。また道徳教育の内容は、「主として自分自身に関すること」、「主として他の人とかかわりに関すること」、「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」、「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の 4 つの視点から捉えるものとなっており、その各視点の中ではいくつかの項目が設定されている。例えば「主として集団や社会とのかかわりに関すること」では、「(1) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。」といったような視点に応じた内容が 10 項目設定されている（項目数は各視点によって異なる）。そして、特に視点 3 の「主として自然や

崇高なもののかかわりに関すること」と視点4の「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の内容のほとんどが、社会科公民的分野の内容と重複している。このことから、今日の道德教育の各教科との連携において、社会科公民的分野が道德教育の中心となるべき教科であるということがわかる。

2.3 道德の教科化について

小学校では2018（平成30）年度、中学校では2019（平成31）年度から道德の教科化が始まる。道德の教科化に伴い、今までの指導に加えて、問題解決や体験的な学習などを取り入れた「考え、議論する」道德教育を目指す形となった。また「何を知っているか」だけでなく、そこから「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」の資質・能力にまで引き上げることを目指すとしている（文献3）。そのため教員は今まで以上に多様な展開と指導方法の工夫が求められ、各教科との連携もこれまで以上に求められることは必然といえる。加えて、政治や経済の動向、社会情勢の変化に伴って道德教育の内容も変遷してくるため、少子高齢化や人口減という事態が進むにつれ、日本社会では道德教育においてこれまでなかったような難題が次々と発生することが予想される。以上のことから、現代社会の変化に伴い変化していく道德が教科化することにより、今後これまで以上に社会科公民的分野との密な教科間の連携が求められると考えることができる。

3. 目的

本研究の目的は、道德教育と社会科公民的分野との密な教科間の連携を今後展開していくため、現段階における道德教育が社会科公民的分野にどのように影響しているのかを明確化することである。今回は道德教育により培われた道德性が社会科公民的分野の興味・関心にどう影響するのかということに焦点を当てた。このことを明確化させることで、道德教育、または社会科公民的分野の指導においてお互いに影響があるとされる内容をその教科に位置づけることが可能となり、相互の理解に大きく貢献することができるといえる。またそのことを発展させて、道德教育と社会科公民的分野の新たな指導方法を確立させることも考えられる。そこで道德性が社会科公民的分野への興味・関心に与える影響を調べるに

あたり、「道德教育の内容と社会科教育の公民的分野における内容の重複に伴い、道德性が高いほど社会科の公民的分野の興味・関心も高くなる。」という仮説を立てた。

4. 研究方法

本研究ではアンケート調査を実施した。対象は中学3年生で144人に対して行い、人数の内訳は男子が58人、女子が72人、不明が14人となっている。アンケート調査を行った時期は2017年1月（3学期開始直後）であり、それぞれ各教室にて実施した。またアンケートの実施時間は10分と設定した。アンケートの質問は計30問で構成されており、そのうち道德性に関する質問を22問、社会科公民的分野への興味・関心に関する質問を8問に設定した。そして、質問は全て1から5の中から自身に当てはまる数字を選んでもらう5段階の尺度を活用した。それぞれの質問については、以下の通りである。

4.1 道德性に関する質問について

道德性を計るにあたって、中学校学習指導要領解説道德編における道德教育の4つの視点のうち、視点3の「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」と、視点4の「主として集団や社会とのかかわりに関すること」に着目し、この2つの視点の各項目に定められている目標が身についているか否かで判断することとした。また、各項目の目標が身につけているか否かを判断するにあたって、その目標に対する〈道德的価値〉と〈道德的実践力〉が身についているかの2つの観点に準じた質問を作成した。中学校学習指導要領解説道德編では「道德的実践力とは、人間としてよりよく生きていく力であり、一人一人の生徒が道德的価値を自覚し、人間としての生き方について深く考え、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道德的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している」（文献4）と記されている。このことから、道德的実践力は道德的価値を自覚し、そのことを実現しようとすることで身に付く力であるといえる。そのため道德的価値と道德的実践力の関係として、道德的価値の自覚なしでは道德的実践力は身に付かないと解釈することができる。道德性に関する22問の質問のうち、6問は視点3の「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」に関する質問であり、残りの16問は視点4の「主として集団や社会

とのかかわりに関すること」に関する質問となっている。

4.2. 社会科公民的分野への興味・関心に関する質問について

社会科公民的分野への興味・関心を計るにあたって、まず公民の中身を、中学校学習指導要領解説社会編に定められている公民的分野の内容に則して、「現代社会」、「経済」、「政治」、「国際社会の諸課題」の4つの範囲に分類した(文献5)。そして、各内容への興味・関心に関する質問を2問ずつ作成した。

5. 結果

全てのデータはHADを用いて統計分析を行った(清水, 2016)。なお、被験者ID31はハズレ値と判断したため今回の分析から除外した。除外した理由としては、全ての回答において1とされており、他の被験者と比べて明らかに数値がおかしかったからである。

5.1. 道徳性の質問における因子分析の結果

TABLE1 道徳性に関する質問 因子分析結果

	I	II	III	IV	h ²
第1因子(道徳的価値)					
一人一人が法律やきまりを守り、自分の役割を遂行することは大事なことである	.835	-.328	.037	.201	.668
各国が手を取り合い、平和な世界をつくっていくことは大事なことである	.833	.017	-.025	-.127	.602
一人一人が集団の一員として役割と責任を果たすことは大事なことである	.787	-.045	.179	-.061	.703
勤労やボランティアなどの奉仕を通して社会に貢献することは大事なことである	.745	.055	.169	-.114	.684
性別や人種などの差別を無くしていくことは大事なことである	.741	.004	.016	-.153	.475
日本の文化や伝統を次の世代に残すことは大事なことである	.720	.249	-.094	-.040	.673
生命の尊さを理解することは大事なことである	.713	-.064	-.116	.090	.451
一人一人が互いに協力したり、励まし合ったりすることは大事なことである	.640	.104	.132	.029	.642
私は自殺に関するニュースを聞くたびに悲しい気持ちになる	.505	.318	-.240	.134	.497
地球温暖化などの環境問題を解決することは大事なことである	.492	-.184	.114	.118	.289

第2因子(社会に対する道徳的実践力)

私は私が暮らしている地域の歴史や産業について興味がある	-.195	.817	.014	.067	.569
私は将来、日本の文化や伝統を次の世代に残すための手助けをしたいと思っている	-.043	.788	.016	.087	.656
私はボランティアに積極的に参加している	-.014	.534	.251	-.092	.403
自分が住んでいる地域に愛着を持つことは大事なことである	.479	.505	-.114	.028	.691
私は環境のことを考えた行動をよくしている	.050	.322	.185	.087	.270
私は将来、平和な世界をつくるための手助けをしたいと思っている	.269	.315	.076	.247	.526

第3因子(組織に対する道徳的実践力)

私はよく周りの人のために動いている	-.121	.109	.934	.059	.903
私はクラスの係や委員会の仕事に責任をもって取り組んでいる	.205	-.093	.489	.264	.544
私は掃除の時間にきちんと自分の役目を果たしている	.139	.014	.483	.120	.412

私は容姿でその人の能力を決めつけないようにしている	.373	.145	.381	-.241	.429
---------------------------	------	------	-------------	-------	------

第4因子(人間として生きる喜び)

私は自分に誇りを持って生きている	-.269	.175	.158	.755	.635
自分に誇りを持って生きることは大事なことである	.277	.001	-.034	.728	.777

道徳性に関する因子分析の結果より、第1因子を「道徳的価値」、第2因子を「社会に対する道徳的実践力」、第3因子を「組織に対する道徳的実践力」、第4因子を「人間として生きる喜び」とした。第4因子を「人間として生きる喜び」とした理由として、この因子における2問は道徳教育における視点3の「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の「(3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見出すように努める。」という項目に則して設定した質問であるためである。

5.2. 第1因子～第4因子と公民的分野「現代社会」、「経済」、「政治」、「国際社会の諸問題」、「公民的分野(各分野を合わせた平均)」(以後「公民的分野」とする)への興味・関心に関する相関分析の結果

TABLE2 第1因子（道徳的価値）と公民的分野の興味・関心に関する相関係数

	第1因子	現代社会	経済	政治	国際社会の諸問題	公民的分野
第1因子	1.000					
現代社会	.493**	1.000				
経済	.330**	.702**	1.000			
政治	.292**	.694**	.897**	1.000		
国際社会の諸問題	.433**	.767**	.687**	.735**	1.000	
公民的分野	.423**	.868**	.920**	.929**	.882**	1.000

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

TABLE3 第2因子（社会に対する道徳的実践力）と公民的分野の興味・関心に関する相関係数

	第2因子	現代社会	経済	政治	国際社会の諸問題	公民的分野
第2因子	1.000					
現代社会	.692**	1.000				
経済	.544**	.702**	1.000			
政治	.450**	.694**	.897**	1.000		
国際社会の諸問題	.580**	.767**	.687**	.735**	1.000	
公民的分野	.621**	.868**	.920**	.929**	.882**	1.000

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

TABLE4 第3因子（組織に対する道徳的実践力）と公民的分野の興味・関心に関する相関係数

	第3因子	現代社会	経済	政治	国際社会の諸問題	公民的分野
第3因子	1.000					
現代社会	.395**	1.000				
経済	.287**	.702**	1.000			
政治	.318**	.694**	.897**	1.000		
国際社会の諸問題	.436**	.767**	.687**	.735**	1.000	
公民的分野	.395**	.868**	.920**	.929**	.882**	1.000

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

TABLE5 第4因子（人間として生きる喜び）と公民的分野の興味・関心に関する相関係数

	第4因子	現代社会	経済	政治	国際社会の諸問題	公民的分野
第4因子	1.000					
現代社会	.472**	1.000				
経済	.315**	.702**	1.000			
政治	.361**	.694**	.897**	1.000		
国際社会の諸問題	.465**	.767**	.687**	.735**	1.000	
公民的分野	.442**	.868**	.920**	.929**	.882**	1.000

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

TABLE6 第1因子～第4因子間の相関係数及び各因子と公民的分野の興味・関心に関する相関係数

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
第1因子	1.000			
第2因子	.652**	1.000		
第3因子	.586**	.563**	1.000	
第4因子	.480**	.544**	.532**	1.000
現代社会	.493**	.692**	.395**	.472**
経済	.330**	.544**	.287**	.315**
政治	.292**	.450**	.318**	.361**
国際社会の諸問題	.433**	.580**	.436**	.465**
公民的分野	.423**	.621**	.395**	.442**

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

FIGURE1 各因子と公民的分野における「現代社会」への興味・関心に関する散布図

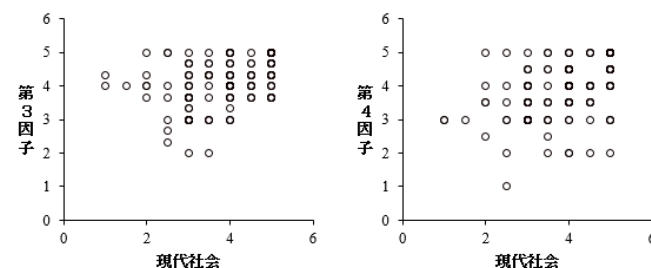
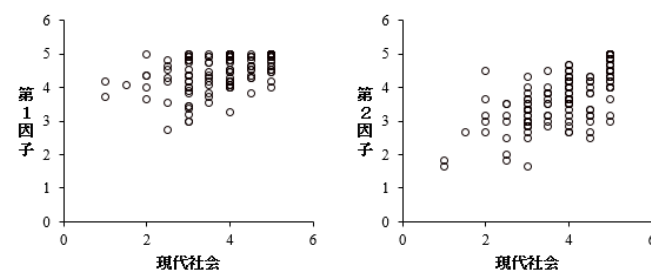


FIGURE2 各因子と公民的分野における「経済」への興味・関心に関する散布図

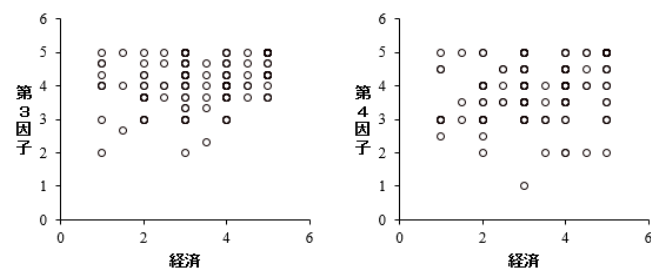
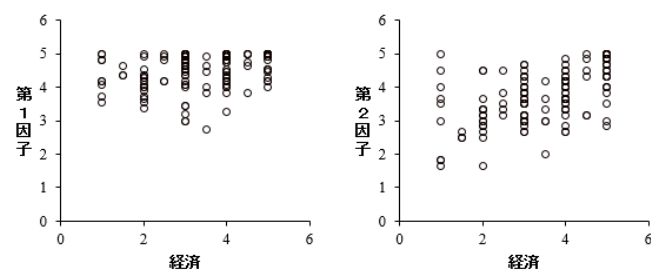


FIGURE3 各因子と公民的分野における「政治」への興味・関心に関する散布図

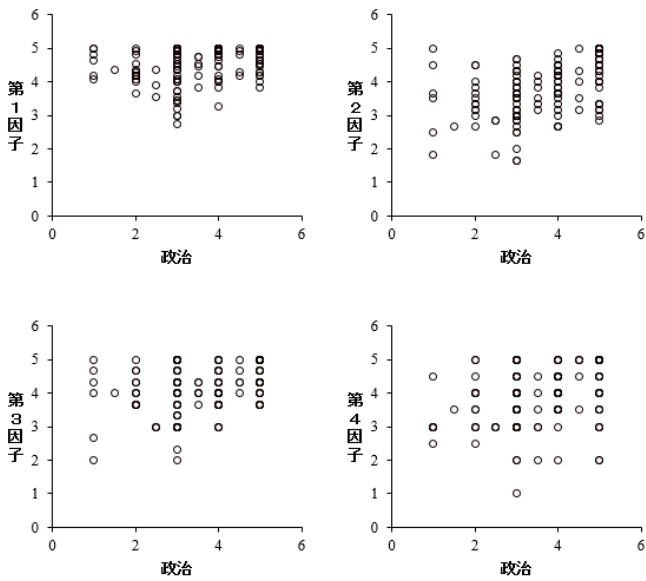


FIGURE4 各因子と公民的分野における「国際社会の諸問題」への興味・関心に関する散布図

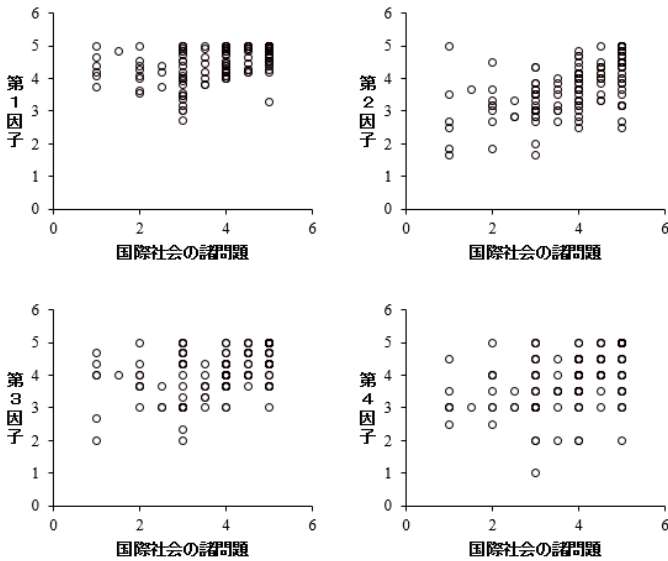


FIGURE5 各因子と「公民的分野」への興味・関心に関する散布図

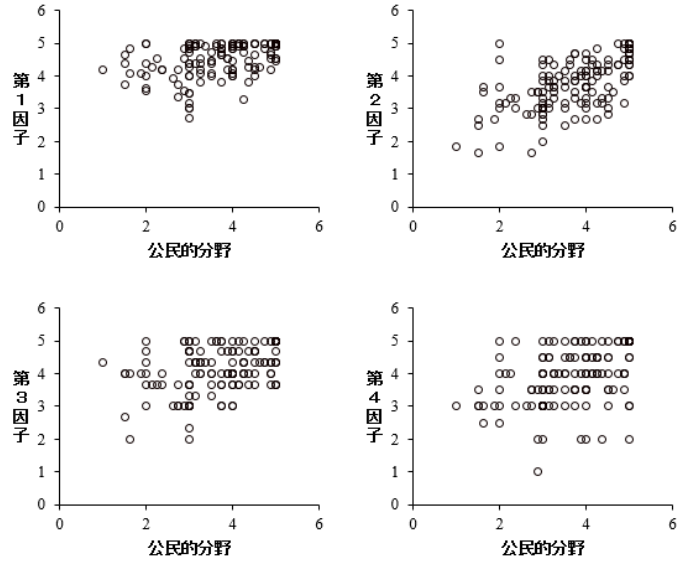


TABLE1～TABLE5より、各因子と公民的分野における全ての範囲に有意な正の相関がみられた。また「現代社会」、「経済」、「政治」、「国際社会の諸問題」の中でも「現代社会」と「国際社会の諸問題」の方が、どの因子も他の2つの範囲に比べてより高い正の相関をとっているといえる。加えてTABLE6の相関係数及びFIGURE1～FIGURE5の散布図より、各因子の中でも第2因子の方が、他の因子に比べて公民的分野における全ての範囲により高い正の相関がみられた。

6. 考察

今回の研究結果より、「道德教育の内容と社会科教育の公民的分野における内容の重複に伴い、道徳性が高いほど社会科の公民的分野の興味・関心も高くなる。」という仮説は正しいということが判明した。また道徳的価値だけではなく、社会に対する道徳的実践力が身に付いている人は道徳的価値が身に付いているのみの人より公民的分野に対する興味・関心が高いことが判明した。さらに、社会に対する道徳的実践力が身に付いている人は公民的分野の中でも特に「現代社会」と「国際社会の諸問題」に対する興味・関心が高いということが明らかになった。組織に対する道徳的実践力が身に付いている人が社会に対する道徳的実践力が身に付いている人に比べて公民的分野への興味関心が低いということに関しては、組織の中で自らがそう行わないと周りに迷惑がかかるというような「自分の行動が直接組織に影響する」というケースの質問内容であったため、道徳的価値の自覚はないが道徳的実

践力が身に付いているという人も含まれているからではないかという理由が考えられる。今回の研究結果から、中学校における指導において、道徳教育での生徒の社会に対する道徳的実践力の育成における内容と、社会科公民的分野における現代社会や国際社会の範囲の内容とで連携を図ることで、相互の理解に大きく貢献できるということが考えられる。

7. 今後の展開

今回の研究では、社会科公民的分野と内容が重複していると考えられる道徳教育における視点3の「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」と、視点4の「主として集団や社会のかかわりに関すること」に関する道徳性しか計れていない。そのため、視点1の「主として自分自身に関すること」と視点2の「主として他の人のかかわりに関すること」に関する道徳性も合わせた上で、社会科公民的分野への興味・関心とどのような関係性があるのかを調べることが今後の課題である。また今回は社会科公民的分野において興味・関心しか計っていないため、今後の展開として各範囲の内容に対する理解度が道徳性とどのような関係性があるかを明らかにし、より道徳教育と社会科公民的分野との密な教科間の連携を可能にし、道徳の教科化に向けた社会科公民的分野との新たな相互の連携の指導方法の確立に大きく貢献していきたい。

8. 引用文献

1. 文部科学省（2008）．中学校学習指導要領 日本文教出版株式会社.
2. 文部科学省，公開年不明，道徳教育の現状と課題、改善の方向性（検討素案）（教育課程部会等の審議を踏まえて再整理したもの），
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/07102505/004.htm, 2016年12月10日
3. 文部科学省，公開年不明，「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（整理案），
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/111/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2016/02/04/1366380_1.pdf,
2016年12月14日
4. 文部科学省（2008）．中学校学習指導要領解説 道徳編 日

本文教出版株式会社.

5. 文部科学省（2008）．中学校学習指導要領解説 社会編 日本文教出版株式会社.

清水裕士(2016)．フリーの統計分析ソフト HAD：機能紹介と統計学習・教育，研究実践における利用方法の提案 メディア・情報・コミュニケーション研究，1，59-73.